



もっと詳しく知りたい人は二次元コードを読み取っていただき、市ホームページをご覧ください。

平成30年度 決算状況報告

(単位:%)

健全化判断比率	南あわじ市		早期健全化基準	財政再生基準
	30年度	29年度		
実質赤字比率 (普通会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	-	-	12.72	20.00
連結実質赤字比率 (全ての会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	-	-	17.72	30.00
実質公債費比率 (借金の返済額等の大きさから資金繰りの危険度を見る比率)	14.1	14.3	25.0	35.0
将来負担比率 (市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度を見る比率)	122.4	135.6	350.0	-

※赤字が生じない場合は、「-」と表示

(単位:%)

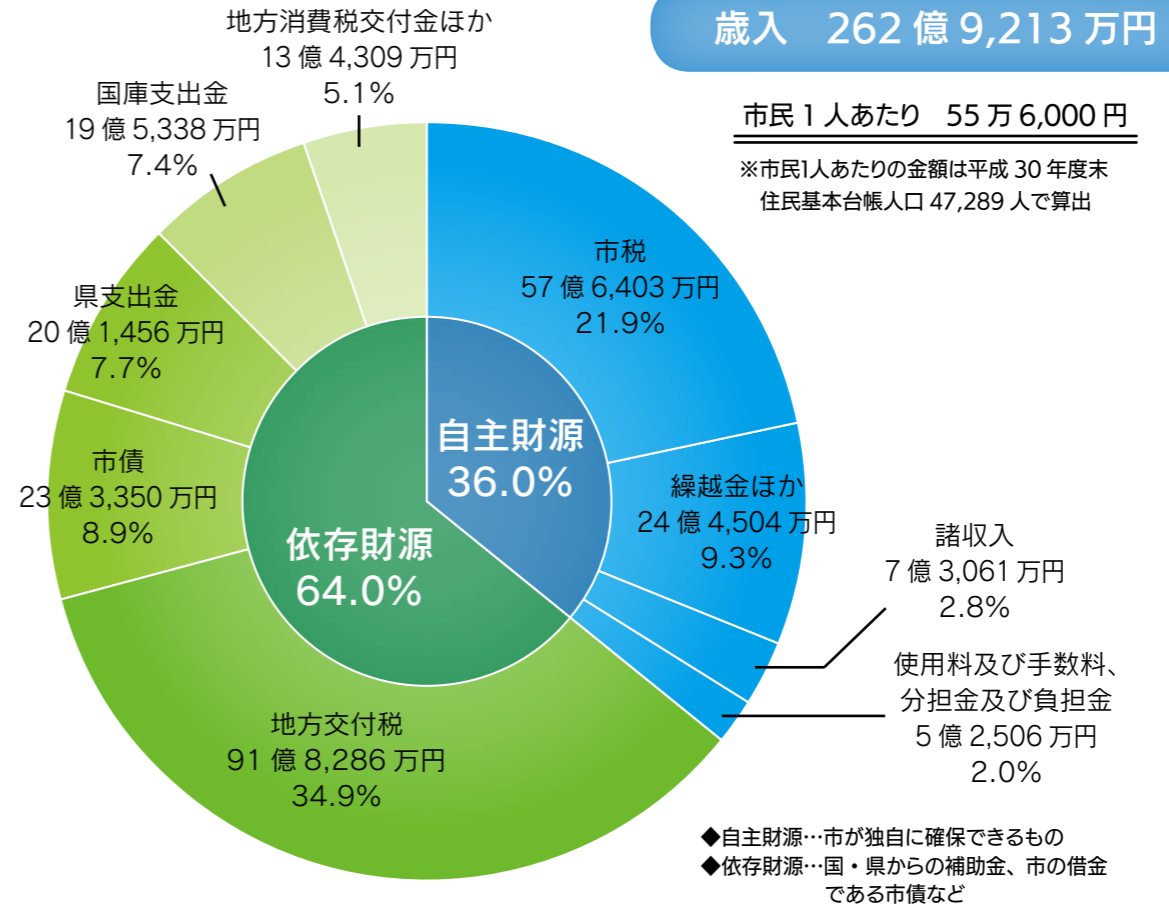
資金不足比率	南あわじ市		経営健全化基準	備考
	30年度	29年度		
資金不足比率 (企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度を見る比率)	-	-	20.0	会計ごとに算定

※資金不足が生じない場合は、「-」と表示

決算の概要

平成30年度の歳入は、昨年度と比較して、県営ほ場整備事業にかかる埋蔵文化財発掘調査業務受託による諸収入の増加や、ふるさと南あわじ応援寄附金(ふるさと納税)による寄附金の増加などがありました。一方で、農業・営業所得の減少及び地価の下落傾向などによる市税の減少や地方交付税の段階的縮減による減少が影響し、全体では1.4%のマイナスとなりました。

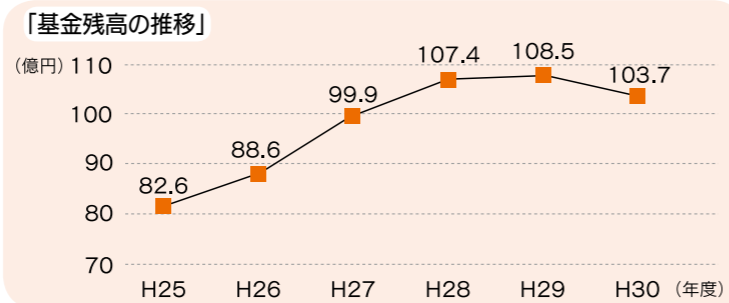
歳出では、昨年度と比較して学童保育所整備等による民生費の増加、埋蔵文化財発掘業務や学校支援システム導入等による教育費の増加、ケーブルテレビ事業の民間化に伴う繰出金の増加などがありました。一方で、大規模な普通建設事業の終了による総務費の減少、災害件数の減少及び災害規模の縮小による災害復旧費の減少、下水道事業における資本費平準化債発行に伴う下水道補助金の減少などにより、全体では2.4%のマイナスとなりました。



基金残高 103億6,737万円

特定の目的のために資金を積み立てたり、運用したりする市の「貯金」です。
(前年度比4億7,889万円減)

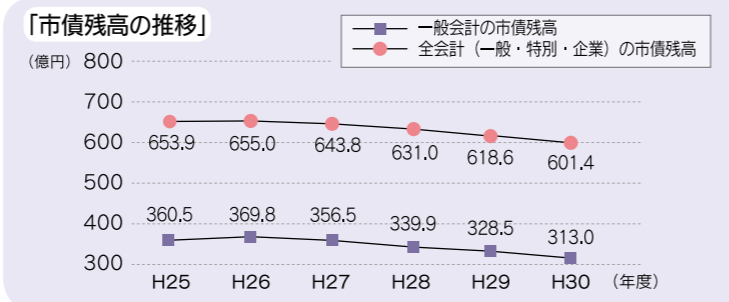
市民1人あたり 21万9,200円



市債残高 313億437万円

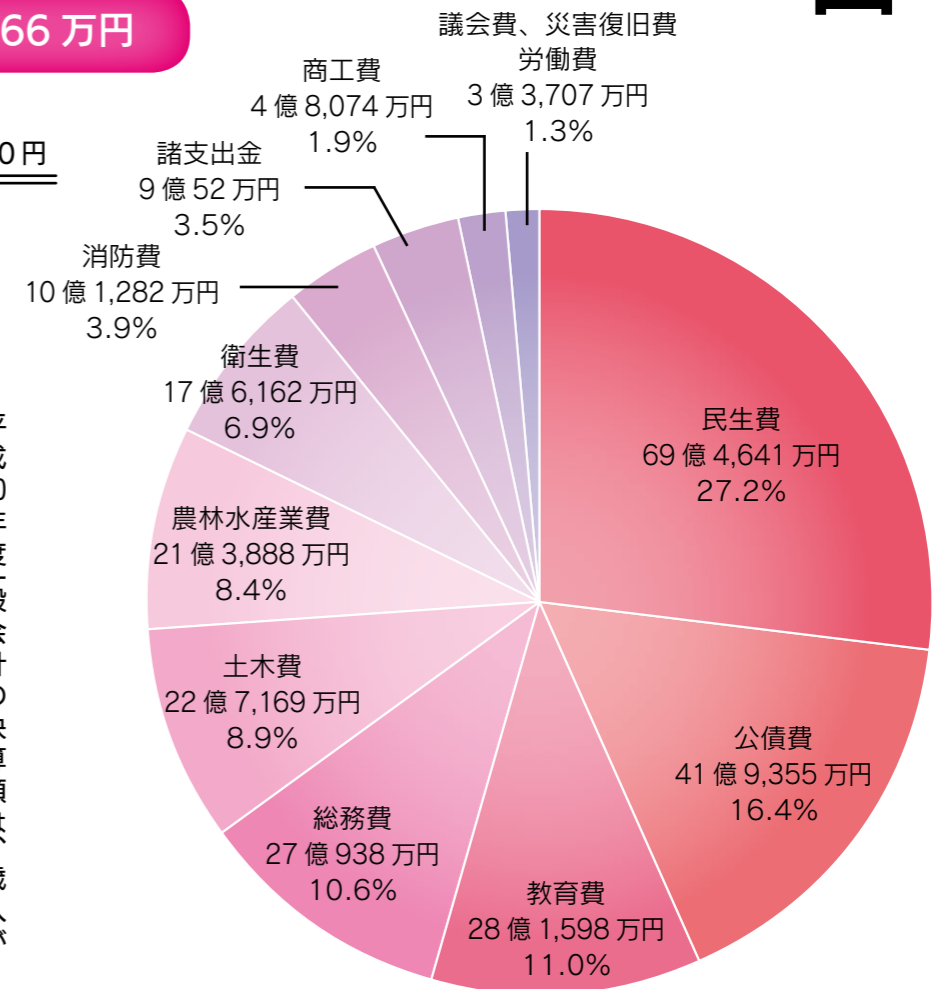
施設整備など大規模な事業を行う際に、銀行等から借入れた市の「借金」です。
(前年度比15億4,141万円減)

市民1人あたり 66万2,000円



歳出 255億6,866万円

市民1人あたり 54万700円



平成30年度一般会計の決算額は、歳入が262億9,213万円、歳出が255億6,866万円でした。歳入歳出差引額から令和元年度へ事業を繰り越して使う財源を差し引いた実質収支は6億6,970万円となり、黒字決算となりました。また、計画的な市債の繰上償還の実施により市債残高の削減を着実に進めることができ、各種財政指度も改善しました。今後も市債発行の抑制と自主財源の確保に努め、健全で持続可能な財政運営を進めていきます。

主な平成30年度事業



協働推進事業

総務費 2,006万円
地域づくりチャレンジ事業補助金の交付等により、地域住民の主体的な事業を後押ししました。



高齢者等元気活躍推進事業

民生費 2,307万円
「思いやりポイント制度」を創設・開始し、高齢者の社会参加を促進しました。



商工振興事業

商工費 1億3,345万円
市内商工団体の育成等のほか、三力(魅・味・見)発信として各地で市特産品を販売し、農畜産物のPR・販売促進に努めました。



埋蔵文化財保護事業

教育費 2億5,636万円
公的財産である埋蔵文化財を調査・適正に保護し、郷土愛の醸成等に活用しました。